

園長だより NO 8 8

令和5年度のスタート、在園児は進級したことでちょっぴり誇らしげになり新入園児は少しずつ保育園の生活を肌で感じこれからの園生活を楽しめそうな兆しが少しずつみえてきました。

愛着関係(泣くことに意味がある)

保育と言わず、生きていくうえで子ども(子ども達)の成長にはかかわる大人(人)との愛着関係がなくてはならない。

この世に生を賜ってからすぐにその関係の形成は始まっている。「おぎゃー」と産声をあげてからすぐに愛情を注がれる、「生まれてきて、ありがとう」と周囲の大人に感謝の意を伝えられる。入園までの間に家庭では愛着関係が築かれてきている。

園生活では家庭で養い、育てられた愛着関係をベースに、それぞれの保育者が関係を築いていく、まさに、数日前からこの関係構築がスタートをきったばかりである。

言葉がままならず、まだまだ幼い子は自分の不安、要求を「泣くこと」いわゆる「泣き」で表現する。子どもの「泣き」の大半は意味のある「泣き」である。周りのおとな、もしくは特定の大人に自分の心情を訴え、わかってもらうには「泣くこと」が大切な行為となる。



「電車にみたてて」

傍らにいる保育者が言葉をかけて、その「泣き」の要因を考え、感じとり、その都度適正であろうという対応を選択し接していく、かかわりの中で情緒が安定するやりとりを繰り返していく、子ども側は安心できることを心地よく体験していく。

子どもは自らサイン(泣き)を出せば自分に対応してくれることを学ぶ、しっかりと丁寧に対応してくれる。その関りから愛情を注いでくれる大人がいるという見通しを持つことができる。

この見通しは自分がサインを出すことへの子どもなりの自信につながっていくと考えます。大人にとって時として厄介な「泣き」ですがその行為で心が安定する体験が子どもにとっては自分自身を信頼できることにもつながっていきます。

お母さん、お父さんが安心基地

慣らし保育の初日、短時間ではありますがお母さん(お父さん)と保育園で過ごしました。どの子もいい表情です。親との愛着関係をベースにして新たな環境での探索も始まりました。大好きな人といることによって不安な気持ちも抱かず、むしろ、「遊べるよ、みててね」と言わんばかりの表情で遊びだす姿も見られました。

お母さん(お父さん)を安心基地にして少々、離れ遊びだす、愛着の意義には不安を安心に変えることが含まれています。



「ふねがでるぞ」

不安なこと、怖いと思うことがあっても寄り添う大人がいることで安心できる。自分の心の中に安心感があるからこそ親元から離れて遊びだせる、興味や関心があることに触れてみよう、挑戦しようとする。不安な状態では「やりたいな」「やってみたいな」という気持ちすら表現するには至らない。

安心をベースに「やったこと」「できたこと」が大きくなる過程で自尊感情を育てていく、自分は愛されている。大切にされている存在、不安な時、困ったときに助けてくれる人がある。そのような背景があり、自分の思いで動き出せる。

仮に失敗しても、もう一回やってみようとする気持ちも芽生える。園生活は失敗と成功の繰り返し、すべてが経験(体験)を通じて子どもの成長につながっていく、

愛着について、とりとめのないことを書いてきましたが子どもには寄り添う大人がいて、どんなときにも子どもの心情を察し対応することが子ども達の成長には欠かすことができないものであるということ、慣らし保育がスタートして保育者も子ども達それぞれとの関係を育てていくことになるが気負いは禁物である。日々、穏やかな気持ちを持ち続けていくことが愛着の形成には大切なものである。



「なかよし」

「慣らし保育 お母さんと一緒」

大切にしたいこと

園生活の主役は子ども達、園では子ども達の「やりたい」「やってみたい」と思うことはできるだけ取り組ませてあげたい。大人の都合で管理されたものでなく、子どもを中心にした、子どもの育ちや興味感心に即した活動内容を考えてあげたいと思っています。

園生活では大人が導き、教えていくこともありますが子ども達あつての保育ですから、子ども達のことを第一に考え、教え、教えられる関係から共に考え、一緒にできる関係性を大切にしていきたいと考えます。

新年度がスタートして大切にしたいことは子どもの理解に努めること、子どもに寄り添いそれぞれの心情を受け止め、生活を共にしていくには、子どもの理解に努めていくことが必須となります。

子ども達のために、子ども達といっしょに考えたことができる場にしていきたいと思っています。

新年度のスタート、たくさんの目標を設定するよりは、日々、繰り返される生活の中で子ども達を理解していくことがより良い成長に反映できるのではないかと考えています。

しばらくはよく遊び、よく遊べ、遊びのなかに子どもを理解する要素が多く、多く存在します。

(おおぞら保育園 園長 廣部信隆)